

大島「緑の真珠」復活へ

気仙沼市の離島・大島で緑化活動に取り組む「緑の真珠を守る会」(菊田栄四郎会長)は3月22日、島の観光名所の竜舞崎などに住民の協力を得て桜の苗木を植樹した。東日本大震災や松食い虫の影響で多くの木が枯れており、「復興緑化再生プロジェクト」として「緑の真珠」と呼ばれる島の緑の復活を目指す。参加者は植えた桜の花が咲きそろう復興の春を楽しみに一本一本丁寧に植えた。



竜舞崎周辺で桜を植える住民ら

守る会と住民 桜の苗木植樹

桜の苗木は公益財団法人日本さくららの会と山梨県韮崎市のNPO法人「悠久の郷」から寄贈された約300本のうち130本を植え、ほかは住民に配布した。塩害に強いオオシマザクラをはじめヤマザクラ、カワヅザクラなど7品種で高さは2.5〜3メートル。作業には「緑の真珠を守る会」や地元自治会組織の

ヤベルで土を掘り、苗木を植えて水をかけ、竹の支柱を立てた。

内山理事長は「花と緑の大島の自然を呼び戻し、架橋完成後に車などで訪れる大勢の人を楽しませることができるような町おこしになれば」と願っていた。

「悠久の郷」ではおととしから大島へ苗木を贈る支援を続け、これまでに桜600本、松500本が植えられた。ことしは苗木のほか仮設住宅向けの桜鉢植え50鉢を届けた。今後も桜の

開花楽しみに 復興の春待つつ

寄贈を継続する。

植樹に参加した地元の主婦、村上文江さん(59)は「自利勝理事長ら2人、東京農大の入江彰昭准教授と学生4人、気仙沼市などで復興支援活動が続けているシンガー・ソングライターのしらいみちよさんが参加したらいみちよさんが参加した。島の南端に位置する竜舞崎と小田の浜をつなぐ遊歩道、亀山周辺など4カ所に分けて植えた。参加者はシ

「緑の真珠を守る会」の菊田会長は「支援者の存在は大きな力となる。島が再び緑の真珠に近づくと今後も頑張っていきたい」と話していた。